



TITLE:

祝辞

AUTHOR(S):

廣田, 史郎

---

CITATION:

廣田, 史郎. 祝辞. 静脩 1984, 号外: 4-5

ISSUE DATE:

1984-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37824>

RIGHT:

ありがたいことです。いまから少なくとも半世紀、その風雪に耐えて、先人の手垢がしみ、重厚味を加えるであろうこれらの机が、そのまま京大の歴史を刻み、学風を語り伝えるものとなることを希っております。

私どもは、京都大学の図書館を、大学における教育・研究活動に対する〈支援機構〉であると、自ら明確に規定しております。新しい図書館の開館を迎えて、教職員の方々は申すに及ばず、未来を背負う学生諸君にも、この図書館を十分に活用して頂き、伝統を誇る京都大学のアカデミズムが一層の輝きを増すのに役立ちますよう、積極的な役割を果たすべく図書館は努力してまいり所存でございます。

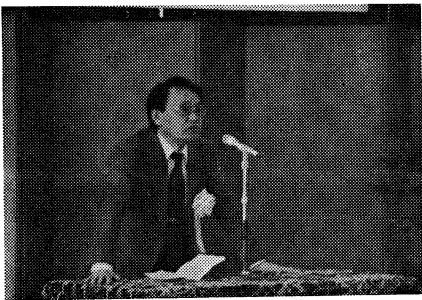
本日ささやかな記念品としてお手許にさしあげた図書館行事表には、Academic Year に従い新学期の4月から休館日や夜間開館休止日が記され

ておりますが、ここに紹介されている絵詞は本館が所蔵する3万冊の貴重書の中から選んだお国歌舞伎の物語でございます。めったにお目にかかれぬ古典にふれる楽しみも味って頂き度く、みんなで工夫してみました。

終りに、学外からご多忙の中を遠路この開館式にご臨席賜りました文部省学術国際局の広田課長、管理局の福田課長、全国国立大学図書館協議会長の裏田東大館長、各大学図書館長はじめご来賓の方々に厚く御礼申し上げますとともに、歴代総長はじめ学内にあってこの図書館の新営と整備に心を砕いて頂いたご列席の皆様お一人一人に改めて深甚の謝意を表します。今後とも図書館の活動に対して、深いご理解と暖かいご支援を賜わりますようお願いして、ご挨拶といたします。ありがとうございました。

## 祝 辞

文部省学術国際局情報図書館課長 廣 田 史 郎



本日の京都大学附属図書館新館開館記念式典には、大崎学術国際局長がご祝詞を申し上げるはずのところ、あいにく国会開会中で残念ながら出席できませんので、私から代って祝辞を申し述べさせていただきます。

京都大学関係者の方々に永く待ち望まれていた、新しい附属図書館が、昨年10月に建物の竣工をみて、いよいよこの4月から開館の運びとなりますことは、まことにめでたく心からお慶び申し上げます次第でございます。

大学の教育あるいは研究の基本施設としての附属図書館の重要性につきましては、ここで改めて申し上げる必要もないかと存じますが、大学図書館は当該大学のシンボルあるいは心臓であると言われておるものでございます。京都大学の図書館はたいへん環境にもマッチしたすばらしい建物でございます。この施設は総面積にいたしまして従来の約3倍の14,000㎡、蔵書の収納能力は110万冊から120万冊と、これまでの約2倍を数えるなど、機能が著しく拡大されているわけでございます。それをベースにいたしまして、高度で、かつ使いやすい種々の施設・設備を備えているときいております。

京都大学は、これまで社会の各方面にすぐれた人材を数多く輩出していますとともに、世界的にも幾多の輝かしい研究業績をあげられて、学術研究の発展に寄与されているところでございますが、まさに京都大学にふさわしい新しいシンボルがこのたび完成したのだと思います。

したがいまして、今後の京都大学の教育・研究の発展にとりまして、この新しい図書館の発足というものが大きな意義を有するものと存じます。

施設の基本計画の段階から今日まで十余年の年月が経っているわけですが、この間、歴代の館長先生はじめ本学関係者の方々の並々ならぬご努力の積み重ねが、今日の立派な図書館の完成をもたらしたものだと思えます。

ご承知のとおり文部省におきましては、近年における学術研究の急速な発展と学術情報流通メディアの進歩による、学術情報量の著しい増大に対処すべく、昭和55年に学術審議会から答申をいただき、その答申の線にそいまして、新たな学術情報システムの整備にむけて、その具体化を鋭意努力しているところです。その中で、大学図書館が中心的な役割を担うことが期待されております。このため、大学図書館の整備、特に大学図書館がもっておりますすぐれた人的な能力、あるいは物的な資源を有効に活用していく仕組みをつくっていくことに努力を傾けているところです。

このように新しい学術情報システムの中におきまして、大学図書館の新しい発展というものが期待されておりますときに、本学にこのような立派な図書館が竣工し、開館されるということは、本学にとってはもとより、全国的な立場からみましても、たいへん大きな意義を有するものと考えます。

この新しい図書館では、読書環境の整備はもとより、図書館資料の有効な利用の推進等利用面で

の改善に努められるとともに、図書館業務の電算化により、高度な図書館活動の展開をはかり、あるいは、学術情報システムの一環を担うための体制を整備されるなど、新しい機能の充実にたいへん努力されておられるとうけたまわっております。

特に、学内のご努力によって実施されます高額参考図書の集中配置あるいは全学的な図書の収納計画にもとづいて行われますバックナンバー・センターの設置、さらに資料の共同利用をはかるために化学系雑誌の集中配置等々、研究図書館としての機能の充実に努められておられますことは、京都大学附属図書館の大きな特色であると存じます。林前館長、高村現館長はじめ館員の方々の意欲的な取組みと、これを支えてこられた全学の関係者の理解と支援に対しまして、あらためて敬意を表するものであります。

このような試みを含めまして、今後の京都大学附属図書館の活動に対しまして、全国の大学図書館から、注目が集まるものと思われます。文部省といたしましても、他の大学図書館のお手本となるような積極的な図書館活動が展開され、先駆的な役割を果たしていただくことを強く期待しているものでございます。

終りにあたりまして、今後とも、このすぐれた施設・設備を備えました京都大学附属図書館が十分に学生、研究者の方々に活用されまして、本学の教育・研究活動がより一層発展することをお祈りいたしまして、簡単でございますが、お祝いのことばいたします。

祝

辞

国立大学図書館協議会会長  
東京大学附属図書館長

裏 田 武 夫



本日の開館おめでとうございます。ただ今ご紹介がありましたように国立大学図書館協議会の同僚を僭越ながら代表させていただき、また、日頃親戚同様にお世話いただいております京都大学のみなさまに対しまして、東京大学からお祝いと感謝の念を申し述べさせていただきたいと思えます。

実は、こちらへまいります前に何かの用件で平